

# さまざまな人が支え合う お互い様の地域づくり 事例集

## 東近江市

- 生活支援サポーター絆
- たすけあい中野
- ちょこっとサポートのとがわ
- ちょこっとサポートみその
- おうみサンバ
- 加楽
- 中野ヴィレッジハウス
- あいとうふくしモール「ほんなら堂」



## ■活動内容

永源寺地区を活動範囲に、暮らしの中で困っていること、「ちょっとお手伝いしてほしいな…」と思う事のお手伝いをします。

## ●具体的な活動

- ・見守りを兼ねた話相手
- ・ゴミ出し
- ・送迎(買い物、通院、サロンなど)
- ・電球交換 など

※月1回、サポーターの情報交換として定例会を開催しています。

■団体名	生活支援サポーター絆
■参加者	生活支援サポーター絆 サポーター
■活動拠点 連絡先	東近江市社会福祉協議会 永源寺事務所 東近江市永源寺高野町437番地 TEL:0748-27-2066



## ■活動のきっかけ・実現までの経緯

お互いさまで「助けて！」と言い合えるまちを目指して、平成23年に、東近江市社会福祉協議会主催の「生活支援サポーター養成講座」を開催。養成講座を受講したメンバーが、暮らしの中での困りごとや地域の現状を話し合う中で、「助けて」ともっと気軽に言い合える地域になれば…」という意見がたくさん出されました。

そこで、講座の気づきや思いを実際の活動につなげるため、話し合う機会として、懇談会を9回にわたり開催。懇談会の中で、活動のイメージや大事にしたいことを共有し、平成24年1月に「生活支援サポーター絆」を結成しました。



## 利用者さんの声

★サポーターさんと、昔の話や風習などの話もでき、絆さんが来てくれることを楽しみにしています。

★えんがわ喫茶の送迎を絆でお願いしています。サポーターや同じく絆を利用している人との道中での会話はもちろんですが、えんがわ喫茶に行ってお友達もできました。

## 活動者の声

★サポーター自身の「生きがい活動」になっている。利用者から、「ありがとう」と言ってもらえることや頼ってもらえること、サポーターが知らなかった知識や情報を教えてもらえるなど、サポーター自身も楽しみながら活動を行っています。

★やっぱり、活動で悩むこともあります。サポーターみんなで相談して乗り越えています。サポーター同士のつながりも大事！です。

## ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

・家族と同居していても、生活リズムが合わないなど、寂しさを抱えている方もおられます。今後も、暮らしにくさだけでなく、「寂しさ」に寄り添っていきたいと思います。また、買い物や通院のように暮らしに必要なことだけでなく、サロンなどの送迎、散歩など、その人の暮らしを豊かにするお手伝いをします。

・家族、親類、ご近所さんなど、その人が培ってきた関係を崩さず、介護サービス・地域とのつながりの“すきまを埋める”活動を行います。

## ■活動内容

「ちょっと助けてほしいなあ」と「私にできることなら」がつながって、日々の暮らしをお手伝いする“たすけあい活動”です。特に、「困っているけど、頼む人がいない」という方々のお手伝いをしています。

お手伝いの内容としては、話し相手・ゴミ出し・おでかけ支援(通院・買い物・銀行・外出など)・家の掃除や片付けなど。

基準や対象は決めず、オーダーメイドで一人ひとりの困りごとや、さみしさに寄り添う活動をしています。



■団体名	たすけあい中野
■参加者	たすけあい中野 生活支援サポーター
■活動拠点 連絡先	中野コミュニティセンター（東近江市中野町781-5） 中野ヴィレッジハウス（東近江市東中野町5-21）  TEL:090-2044-3352（相談専用電話）

## ■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成25年度に東近江市社協が開催した『生活支援サポーター養成講座』を受講したメンバーで、講座後に『生活支援サポーター懇談会』を開催。「中野地区にどんな困りごとがあって、自分たちには何ができるのか」を、3歩進んで2歩下がりながら、ゆっくり、活動のイメージを共有してきました。

そして、「一人では何もできない、仲間と話し合い、助け合いながら活動していこう」と、平成28年1月16日に『たすけあい中野』を設立しました。

設立にあたっては、中野地区まちづくり協議会、中野地区社会福祉協議会、中野地区自治会連合会、東近江市社会福祉協議会などにご支援いただき、活動をスタートしました。



## 利用者さんの声

- ・お手伝いをしてもらっていること以外にも「困ったことがあれば、連絡してください」と言ってもらえるのが心強くありがたいです。
- ・送迎をお願いしていますが、車中でのおしゃべりも楽しいです。
- ・みなさん親切で、ちょっとしたことだけど、相談すると気持ちが楽になります。

## 活動者の声

- ・「ありがとう」と言ってもらえることがうれしく、活動の励みになっています。
- ・自分のできることが、暮らしのお役に立てることが自分の充実感や満足感につながっています。
- ・気になっていた人へ声かけができるようになり、仲間と知恵を出し合えば何とかなる感じています。
- ・将来、自分が助けてもらう側になった時のために、この活動を続けていきたいです。

## ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

『たすけあい中野』が何もかもするのではなく、その人がこれまで培われてきた家族や近隣住民のつながりを切らないことを心がけています。また、無理し過ぎないように、たすけあい中野ではできないこと、他の支援の方が良いことは、本人の状況を確認した上でつなぐようにしています。暮らしの困りごとを解決するだけでなく、その方の暮らしがより豊かになることを大事にしています。

住民同士が「お互いさんでたすけあう心」を広げて、新たな仲間を増やしていきたいです。



東近江市



### ■活動内容

誰もが安心して暮らし、気軽に「助けて」と言えるまちを目指して活動しています。ふだんの暮らしの中での“困った”の解決にむけてお手伝いします。

#### ○主なサポート内容

話し相手、散歩の付き添い、ゴミ出し、草刈り、部屋掃除、家具の移動・運び出し、買い物の補助、薬もらい…など、ケース毎に相談・検討し対応しています。

#### ○サポーター活動協力金等

1時間以内の活動は、100円×活動したサポーター人数の金額をお願いします。1時間を超える場合、30分ごとに50円×活動サポーター数の追金をお願いします。その他活動に必要な資機材等の費用は、依頼者に実費を負担いただきます。

#### ○懇談会

サポーターが楽しく活動を続けていけるように、毎月第4火曜日に開催し、継続・新規依頼の調整や、活動しての思いなどをメンバー間で共有しています。

### ■団体名

ちょこっとサポートのとがわ

### ■参加者

ちょこっとサポートのとがわサポーター（能登川地区住民）

### ■活動拠点 連絡先

東近江市社会福祉協議会 能登川事務所  
住所：東近江市猪子町124番地（能登川保健センター内）  
TEL：0748-42-8703  
IP：050-5802-2989

### ■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成25年の「生活支援サポーター養成講座」の受講者が、能登川地区で身近な支え合いができないかと話し合ったのがきっかけです。お互いの活動に対する思いや、目標などの目線合わせをしたり、能登川地区の困りごとを福祉専門職や民生委員などから聞き、それに対して自分たちにできることを話し合いました。

何度も話し合いを重ね、自分たちが無理なく楽しんですることを大切に、暮らしのちょっとした困りごとのお手伝いをする「ちょこっとサポートのとがわ」の活動を、平成27年よりスタートしました。当初は4人のメンバーでしたが、知人などへの声かけにより増減があり、現在は登録メンバー13名で活動しています。

ケアマネジャーやホームヘルパーからの依頼が多く、他にも市の地域包括支援センター、民生委員・児童委員、依頼者本人から相談を持ち込まれることもあります。



### 利用者さんの声

#### ■本人

- ・「ありがとう」
- ・「手伝ってもらえて、嬉しかった」
- ・「また来てね」
- ・「もう帰るの？寂しい。もう少し一緒に話をしたい」
- ・「生姜を植えるのを手伝ってもらえて助かった。何もお礼できないが、ちょっとしたお菓子だけでももらってほしい」

#### ■本人家族（散歩・お話し相手）

- ・「ありがとうございます。少しでも気が休まるので助かります」

### 活動者の声

- ・依頼者からの感謝を表す言葉や笑顔が、活動者の喜びや生きがいにつながっており「自分でも役に立っているんだ」との活動者自身が安心感や充実感を感じられるところは、大きいと思います。
- ・様々な生活実態があることを知って、経験と知識を積むことができています。
- ・定期的な継続事業では「変わらず元気にされているかな…」や「またあの笑顔に会える…」と楽しみの感情が湧いてきます。
- ・利用者の生活状態の変化にも気づけるので、利用者の見守りにもつながっていると思います。

### ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

- ・一人でもメンバーを増やしていきたいです。
- ・通院や買い物への送迎について、当グループでは、交通事故等の懸念から活動を見合わせていますが、いずれ実現につながっていきたくと思っています。
- ・ボランティアである以上無理や背伸びをせず、できないことはできないと伝え、できることは「この程度ですがよろしいですか？」の了解を求めています。活動の判断をする上で、必要に応じて本人と面談を行っています。また、自分たちでは対応できないことについては、行政や民生委員・児童委員、自治会役員などへもつないでいます。
- ・月に1回の懇談会で、活動しての悩みやまずかったこと、良かったことなどをメンバー間で共有し、次の活動につながるように心がけています。



## ■活動内容

御園地区のみなさんの「困っているから、助けて」という声に“ちょこっと”何かできないだろうか、という思いで活動している住民の支え合いグループです。

## ●具体的な活動

- ・見守りをかねた話し相手
- ・買い物の付き添い
- ・通院等の送迎
- ・一時的な子守り
- ・その他(ゴミ出し、病院の予約、草刈り、掃除)

※月1回、サポーターの情報を共有する懇談会を開催しています。

■団体名	ちょこっとサポートみその
■参加者	ちょこっとサポートみその サポーター
■活動拠点 連絡先	御園コミュニティセンター（東近江市五智町351番地2） TEL:090 - 6238 - 6801（相談専用電話）



## ■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成24年度、東近江市社会福祉協議会が主催する「生活支援サポーター養成講座」を受講したことがきっかけです。

受講後「何かしたい」という思いを持った受講者同士が、講座での気づきや、自分たちの思いを話し合う『サポーター懇談会』を開催。13回の懇談会で話し合いを重ね「一人ではできないことも仲間と一緒になら活動ができそう」、「とにかく何かしたい!」という気持ちを“カタチにしたい”という思いから、平成26年6月1日に『生活支援サポーターちょこっとサポートみその』を結成しました。



## 利用者さんの声

- ・皆さんとても親切で、気軽に相談することができます。
- ・サポーターが家に来てくれると安心します。話したいことをゆっくり話すことができるので、来てくれる日を楽しみにしています。
- ・一緒に買い物に行って、物を見て買い物ができることが嬉しいです。

## 活動者の声

- ・活動を重ねていくうちに利用者と関係が深まっていき、色々なお話を聞かせてもらえることが嬉しい。
- ・無理をせずに“ちょこっと”自分にできることを活動することが良い。“ありがとう”という言葉が自分の生きがいにもなっています。
- ・楽しく活動することを一番大切にしています。不安なことがあったら、定例会でメンバーに聞いてもらって、また頑張ろうと思えます。

## ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

楽しく、気楽で、元気に活動することをグループのメンバーが大切にしています。困りごとをサポーターが全て解決するのではなく、自分たちにできる無理のない範囲で活動しています。一人では抱え込まずに、悩んだこと、困ったことがあれば、毎月の懇談会で話し合いをして、お互いの元気を分けあいます。

利用者からの「ありがとう」の一言をもらえるだけで、また頑張ることができます。「してあげる」ではなく、サポーターも利用者からたくさんの気持ちをもらうことができます。

少しでも活動が広がって、“ちょこっと”何かしたいという同じ気持ちを持った仲間を増やしていきたいです。



東近江市



## ■活動内容

平成23年の夏に、おうみサンバ・パーカッション・ワークショップを有志で結成、ことうへムスロイド村、愛荘町体育館にて年3回のサンバ音楽を用いた交流会を開催しています。サンバ音楽の指導には大阪のパーカッショングループのヂスペルタドールさんをお招きして、楽器作り、サンバリズム&ダンスでの音楽交流、そしてお互いの食文化を楽しむ形で行っています。

私たちの合言葉は、言葉が通じなくてもサンバ音楽があれば大丈夫！ワークショップには毎回60名前後の参加者が集い、ポルトガル語、スペイン語、英語、日本語が混じるなか、言葉や文化が違って、サンバ音楽があれば、心は一つになれることを実感することができています。

## ■団体名

おうみサンバ・パーカッション・ワークショップ

## ■参加者

ブラジル人学校の生徒・父兄さん、地域にお住まいの日本人

■活動拠点  
連絡先

会長：学校法人 司学館 司学館高等学校 校長 小梶猛  
事務局：東近江市下中野町637番地 NPO法人加築内  
おうみサンバ・パーカッション・ワークショップ 楠神渉  
TEL:0749-46-0608 E-Mail:karaku@sand.ocn.ne.jp

## ■活動のきっかけ・実現までの経緯

平成22年の夏、ドキュメンタリー映画監督の栗原奈名子さんが、コレジオ・サンタナ学園(ブラジル人学校)の生徒さんに、生のサンバ音楽に触れさせてあげたいとサンバ隊を招いてのサンバ・ワークショップを東近江市で開催。1回だけの企画でしたが、東近江市内に36か国もの外国人がご住まいであること、又ブラジル学校サンタ学園の生徒さんの半数が学費を払えずに運営に困られていること、そして日本人の友人を持たないサンタ学園の生徒さんが社会に出た時に、犯罪に巻き込まれてしまうことがあることなどを知ることができました。

そこで、当日集まった地元のメンバー4名で相談を行い、サンバ音楽を用いたワークショップを今後も継続開催して、子供たち同士が触れ合え、又サンタ学園さんの現状を知って頂く機会をつくることにしました。



## 利用者さんの声

・ブラジル音楽のサンバ、またシュハスコなどの食文化を知ることができました。言葉や文化が違って、同じ地域に住む仲間として、ともに考え行動できればと思います。

・サンバ・ワークショップでは、コレジオ・サンタナ学園の校長先生より、学びたくても学べない子どもたちがいること、又社会にでて正規職に就けず、雇用の調整弁となってしまうことがあるなど、現状の問題点等を知ることができました。

## 活動者の声

・言葉が通じなくてもサンバ音楽があれば大丈夫！を合言葉にワークショップを開催しています。子どもたちは順応性が高く、サンバ音楽を通して、易々と言葉、文化の壁を越えています。東近江市には36か国の方々ご住まい、このような活動を通して、多文化が共生できる地域となればと思っています。

・市内外の様々なイベントでステージ発表の機会を頂きともうれしく感じています。京都サンカF.C京極スタジアムでの公式戦では、大舞台上でサンバ音楽&ダンスを披露することができました。子どもたちにとって、努力は報われることを体験することができ、大きな自信に繋がったのではと思います。

## ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

活動を始めて8年目。地域の大凧祭り、二五八祭り、第九とのコラボ、特別養護老人ホームでの発表などにお誘いして頂くなど、活動の輪が広がり、外国人学校が置かれている現状なども地域の方々から知ることができたのではないかと思います。又地域の企業様の協賛も得て、子どもたちが描いたお揃いのTシャツを着て活動が行えるようになりました。今後は地域でサンバ隊を結成し、パレードに参加するなど、より多くの方に参加して頂き、言葉や文化が違って、お互いを認め合える、多文化共生社会の実現に向けて取り組んでいきたいと思っています。

## ■活動内容

サンバ音楽を用いた多文化交流会のお手伝いをさせて頂く中で、学校運営に困られているコレジオ・サンタナ学園さんの現状を地域の方に知って頂けないかと、そして実際に何らかの支援ができないかと、平成23年2月より当法人より地域の事業所などに働きかけて古紙回収・換金を行い、換金代を学校の運営に役立てて頂けるようにと応援活動を開始しました。

地域のイベントやSNSで近隣の医療・介護・障がい施設・住民さんへ呼びかけを行い古紙の回収・換金活動を行っています。活動方法は、古紙を事業所等に保管して頂き、月に1回、回収に伺ったり、当事業所に随時届けて頂いている古紙を換金して、換金代をコレジオ・サンタナ学園へお届けしています。



■団体名	特定非営利活動法人加楽 古紙回収活動 (for ブラジル学校)
■参加者	地域の医療・高齢・障害福祉事業所、一般企業、住民さん
■活動拠点 連絡先	東近江市を中心とした近隣市町内 特定非営利活動法人加楽 東近江市下中野町637番地 担当 楠神渉、野沢郁子 TEL:0749-46-0608 E-Mail:karaku@sand.ocn.ne.jp



## ■活動のきっかけ・実現までの経緯

東近江市内の多文化音楽交流会 おうみサンバ・パーカッション・ワークショップでブラジル学校サンタ学園の校長先生のお話を聞かせて頂き、生徒さんの半数が学費を払えずに運営に困られていること、そして日本人の友人を持たないサンタ学園の生徒さんが社会に出た時に、犯罪に巻き込まれてしまうことがあることなどを知ることができ、現状を地域の方に知って頂けないかと、そして実際に何らかの支援ができないかと、活動を始めました。

当初は換金額が1,000円程度でしたが、活動に協力して頂く方々が30事業所・住民さんにまで増えて、月1回10,000円程度を学校に届けることができるようになり、学校のガス料金、水道料金の一部に使って頂けており、嬉しく感じています。



## 利用者さんの声

- 古紙回収活動を通じて、東近江市に36か国の方々がお住まいであること、又近隣にブラジル学校が2つもあることなどを知ることができました。ダンボールなど、ほんの少しでも役立てて頂ければと思います。
- 最初は古紙を引き取ってくれるから便利、程度に思っていたのですが、ブラジル学校さんの運営の状況などを知ることができ、今後も継続して協力していければと思っています。

## 活動者の声

- 活動をさせて頂いていて、嬉しいこととして、古紙回収時に自宅では食べきれないからと、学校に「食べ助け」で届けて頂きたいと、お米やお野菜を一緒にご準備して頂いている時もあることです。寄付ではなく、「食べ助け」という言葉、田舎ならではの優しい言葉だなんて思って感じています。もう一つ、嬉しいことがあり、活動を行うにあたって車両を無償提供して頂いている事業所があること、又当日の古紙回収作業を近隣の障がい者施設に通う方が、自主的にお手伝いしてくださっていることです。

## ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

活動を始めて7年目、30事業所・住民さんにまで活動の輪が広がり、とても嬉しく感じています。又寄付ではなく、「食べ助け」という言葉、田舎ならではの優しい言葉も知ることができ、活動に参加される方々の温かい気持ちに触れています。この活動は月1回の活動ですが、無理なく継続は力なりを合言葉に、活動を続け、ブラジル学校の現状をより多くの方々に知って頂き、地域課題の一つとして、国籍に関係なく、子どもたちの未来について、多文化共生の視点からも共に考えることができる地域を目指していきたいと思っています。



居場所

# 中野ヴィレッジハウス・世代を越えて繋がる場

東近江市



## ■活動内容

中野ヴィレッジハウスは、御代参街道の中野地区に残る塩蔵を改修して地域の人たちが自由に交流できる場を目指しています。

日～火と金～土はコミュニティカフェを開き、木曜日は中野地区のボランティアセンターが設置されています。また、ゴールデンウィーク、夏休み、ハロウィン、クリスマスやお正月には特徴のあるイベントを運営委員会が企画して、カフェのスタッフや地域の人たちと一緒に実施しています。

運営委員、カフェスタッフ、ボラセンのスタッフや地域の有志が力を合わせて、地域の見守りにも力を入れています。



■団体名	一般社団法人中野ヴィレッジハウス 代表者 西川 勉
■参加者	地域内外の住民誰でも
■活動拠点 連絡先	東近江市東中野5-21 TEL : 0748-56-1371 mail : nakanovh@gmail.com

## ■活動のきっかけ・実現までの経緯

塩蔵に使われていた倉庫の再利用を考えていた時、近江市「空き家等×α」の可能性を生み出すモデル事業を活用し、自由でインフォーマルな地域の活動拠点が実現できないかと地域の人たちや地域づくりに関心を持つ人たちが集まり、様々な可能性について議論をしてきました。

上記の事業の採択が決まり、一般社団法人を設立し中野地区まちづくり協議会や中野総区自治会の協力と理解のもと、コミュニティカフェの運営も、この地域で活動する子育て支援の地球ハートヴィレッジが担当することでオープンすることとなりました。持続可能な運営のため市社協や地区社協、各種団体の協力のもと歩み始めています。



## 利用者さんの声 <カフェ/ボラセン>

\* 地域で気軽にお茶を飲んだり食事をしたりフラッと立ち寄りたりする場所が増えて嬉しい。ここではイタリアなどこの地区ではあまり馴染みのなかった料理が味わえることも魅力の一つです。

\* 気軽に立ち寄る場所が出来ました。夏休みには子どもたちの活動があったり、野菜のおすそ分け市などもあります。沢山のの人たちとお話出来るのが魅力です。

## 活動者の声 <運営委員/カフェ>

\* 楽しい企画を考えて多くの人たちに来ていただきたいと思っています。今年のハロウィンでは近所の人たちにも協力していただき、子どもたちがそのお家を訪ねて「トリックオアトリート！」の声でお菓子を渡す役割も担っていただきました。

\* 毎日のメニュー作りは大変ですが、美味しいと言っていただけなのが嬉しいです。一緒に企画したイベントが盛り上がり達成感があります。

## ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

オープンするまで2年間ほどこの地域で、この場所で出来ることを皆で沢山考えてきました。そして、オープンして間もなく2年が過ぎようとしています。この間、多くの協力者を得て考えてきたことが次々と実現してきました。地域の方々の底力を見せていただいた思いです。多くの人に来ていただき、多くの意見や提案をしていただけるのですが、出来るだけ具体的に実現するように取り組んでいます。いっぱいいっぱいになっていないか？などと心配して声をかけて下さる方もおられるのですが、急がず出来ることから出来るだけ、というペースは守っているつもりです。スタッフが疲弊しないというのは、ここでの活動が楽しいからだと考えています。スタッフが楽しくなければ参加していたく方々が楽しいはずがないとの思いです。

地域には隠れたお宝がいっぱいいます。これらを発見していく喜びこそがエネルギーになっています。特に子どもたちが輝ける場を、子どもたちと一緒に作っていければ最高だと思っています。



東近江市



## ■活動内容



ほんなら堂(Do)活動は、暮らしの中で発生する困りごとの一部を解決する取り組みです。具体的には、病院までの通院や同行・ゴミ出し・お部屋の掃除・草刈り・買い物代行などの支援を行います。

サービスを利用したいと依頼が入るとコーディネーターが訪問し、依頼内容の確認を行います。依頼内容に基づいてサポーターを派遣し、困りごと解決の支援にあたります。利用者はサービス利用に応じて利用料を支払い、利用料はサポーターに支給されます。

■団体名 あいとうふくしモール

■参加者 あいとうふくしモール運営委員会とほんならサポーター

■活動拠点  
連絡先 東近江市小倉町1830  
TEL：0749-46-2170

## ■活動のきっかけ・実現までの経緯

あいとうふくしモールは、「食」と「ケア」と「エネルギー」が充実した、「地域の安心の拠りどころ」を目指して活動しています。暮らしの中で起こる「ちょっとした困りごと」を解決する取り組みとして、ほんなら堂(DO)活動がはじまりました。

あいとうふくしモールの運営を行っている3つの事業所が資金を出し合い、コーディネーターを雇用しています。具体的にどのような困りごとが発生しているのかを知るために、民生児童委員さんや介護支援専門員の方々に聞き取り調査を行ったり、サポーター交流会などを開催しています。また、サポーターさん向けに高齢者の方との関わりの基本的なことを学べるサポーター養成講座なども実施しています。



## 利用者さんの声

・足が悪く、家の掃除も思うようにできないが、きれいな台所で新しい年を迎えたいと思い、年末に台所掃除を頼んだ。きれいな台所で新年を迎えられ喜んでいる。今度は病院や買い物の送迎を利用したい。  
(86才女性)

・体のあちこちが痛く動けない時に、買物と光熱費の支払いをお願いした。本当にありがたい。  
(85才女性)

## 活動者の声

・掃除の手伝いに行ったが、おしゃべりしている時間の方が長かったり…楽しいです！

・退職後に、自分のペースで活動しています。サポーター交流会も開催され、他のサポーターとも仲良くなれます。

・利用者さんが喜んでくれれば、それでいいんです。

## ■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

安定した運営を続けていくことが何よりも重要であり、継続してはじめて暮らしのサポートが可能になると考えています。継続するためには、多くの方からの支援が必要です。多くの方からの支援を受けるためには、信頼されること、ほんなら堂(DO)の活動が必要であると思っただけのことです。

誰かのためにサポートをしているのではなく、この事業の継続が自分自身のためになるものと認識され、多くの方がサポーターとして参画されることが重要です。このため、成功体験を多くの方と共有する取り組みを並行して行うことが必要だと思われま。